

平成 28 年度

都市と緑・農が共生するまちづくりに関する調査

**「埼玉県東南部地域 5 市 1 町
緑と農の地域資源の活用推進実証調査
(埼玉県東南部地域 5 市 1 町
緑と農の地域資源活用協議会)」**

報告書

平成 29 年 3 月

国土交通省都市局

Contents

I. 調査の前提

1. 調査の目的	I-1
2. 調査の内容	I-1
3. 調査のフロー	I-3

II 平成 27 年度調査成果の更新

1. 行政計画の更新	II-2
2. 現況の解析	II-31

III 緑と農の地域資源の保全・活用計画の検討

1. モデル地区抽出とシンボル地区の選定	III-2
2. モデル地区におけるモデル事業の検討	III-6
3. シンボル地区の選定	III-21
4. 「まつぶし緑の丘公園」を拠点としたシンボル事業	III-30

IV 緑と農の地域資源の普及啓発計画の検討

1. 緑と農の地域資源の普及啓発計画	IV-2
2. 大学等と連携した普及啓発活動	IV-4
3. 地域の催しと連携した普及啓発活動	IV-19
4. 緑と農の地域資源のプロモーション活動	IV-31

V 各市町の緑と農の地域資源の活用推進計画

1. 今後の各市町の緑と農の地域資源の活用推進計画	V-1
---------------------------------	-----

VI. 調査のまとめ

1. 今後の課題	VI-1
2. 広域連携における汎用的手法の検討	VI-3

I

調査の前提

I. 調査の前提

1. 調査の目的

埼玉県東南部地域に位置する 5 市 1 町、草加市・越谷市・八潮市・三郷市・吉川市・松伏町（以下 5 市 1 町と表記）は、昭和 40 年に「埼玉県東部清掃組合（現在の東埼玉資源環境組合）」を組織し、一般廃棄物の広域共同処理に取り組んできた。また、その他の行政課題についても広域連携を図るべく「埼玉県東南部都市連絡調整会議」を平成 3 年に設立し、調査研究及び広域連携事業を行ってきた。

一方、埼玉県東南部地域は、平成 16 年に国交省、農水省、環境省等によってとりまとめられた『首都圏の都市環境インフラのグランドデザイン』において、保全すべきまとまりのある貴重な自然環境の 25 箇所ゾーンの 1 つ『草加・越谷新田ゾーン』に位置づけられている。

しかしながら、市街化の急激な進展や住民のライフスタイルや価値観の変化等、社会情勢の変貌により、緑や農地等の自然資源そのものや管理運営の担い手の減少などが課題となっている。

昨年度、圏域内の緑と農の地域資源の活用を目的に、各市町の資源の現況、各種基本計画、市民団体の活動実態等の情報統合とデータベース化を行った。一方、広域連携による緑と農の資源の保全・活用の実質的施策や取組は未だ無いため、本年度は広域連携の効果発現を図るべく、協議会の連携の深化、充実化を推進し、5 市 1 町で連携して行うモデル事業・シンボル事業の検討を行い、一部試行を実施する。

また、将来的な 5 市 1 町都市と緑・農が共生するまちづくり構想の策定をめざし、今年度の試行事業の実施結果を検証し、今後の持続的な地域資源を活かした広域連携事業に資する展開性や効果発現性などの課題を解析する事を目的とする。

2. 調査の内容

調査の実施については、「埼玉県東南部地域 5 市 1 町緑と農の地域資源活用協議会（以下協議会と表記）」により以下の 3 つの取組についての実証調査を行った。

併せて、有識者、埼玉県、5 市 1 町環境所管課課長、NPO 代表により構成される「埼玉県東南部地域 5 市 1 町緑と農の地域資源活用検討会（以下検討会と表記）」を、全 3 回開催し、3 つの取組について検討を行った。

(1) 取組の内容

取組- 1 「緑と農の地域資源実態調査」

- ・行政計画の更新
- ・現況の解析

取組- 2 「緑と農の地域資源の保全・活用計画の検討」

- ・モデル地区抽出とシンボル地区の選定

- ・モデル地区におけるモデル事業の検討
- ・シンボル地区の選定
- ・「まつぶし緑の丘公園」を拠点としたシンボル事業

取組-3 「緑と農の地域資源の普及啓発計画の検討」

- ・緑と農の地域資源の普及啓発計画
- ・大学等と連携した普及啓発活動
- ・地域の催しと連携した普及啓発活動
- ・緑と農の地域資源のプロモーション活動

(2) 埼玉県東南部地域 5 市 1 町緑と農の地域資源活用検討会の位置づけ

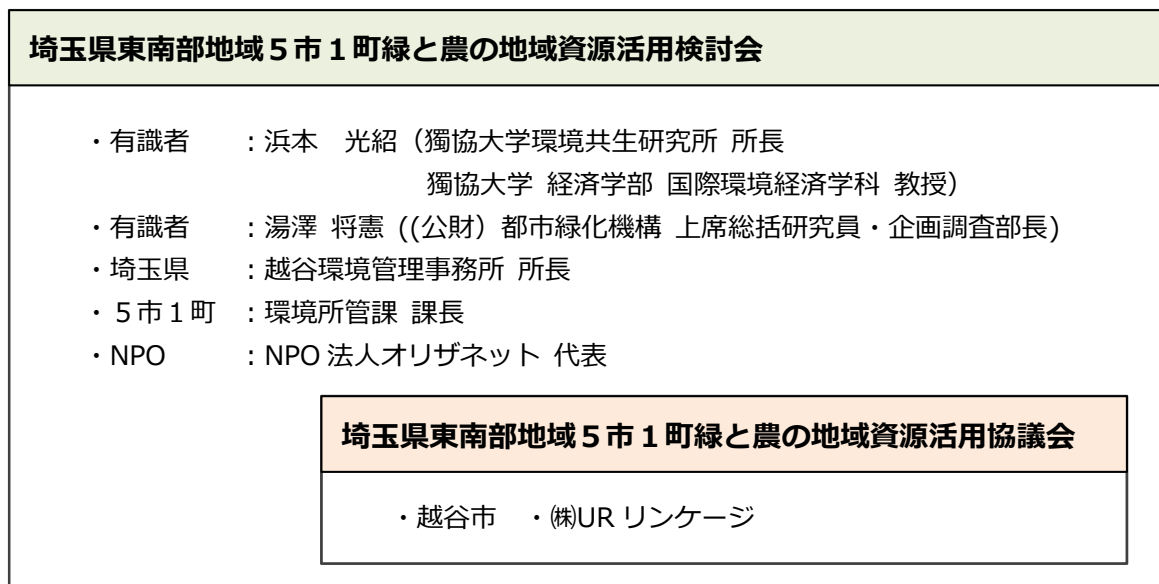


図 I-1 埼玉県東南部地域 5 市 1 町緑と農の地域資源活用検討会の位置づけ

3. 調査のフロー

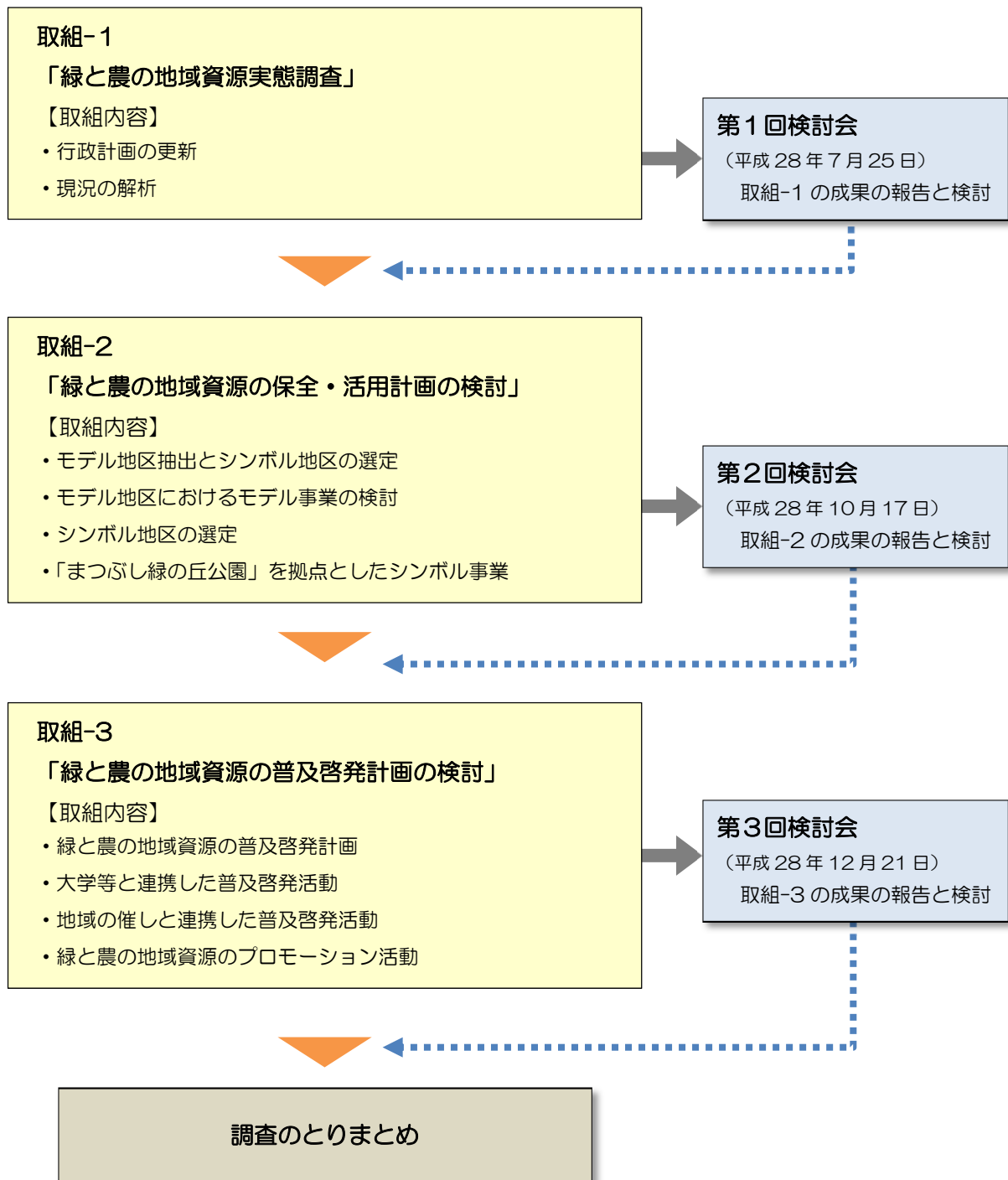


図 I-2 調査のフロー

